広島県石油コンビナート等防災アセスメント検討委員会（第３回）議事要旨

１　日　　時　平成 25 年 3 月 1 日（金）13:00～15:30

２　場　　所　広島県広島市中区基町４－１
　　広島県立総合体育館　小会議室

３　出席委員　荒金委員、國本委員、後藤委員、塩原委員、空委員、土井委員、
　　平池委員、藤井委員、宮本委員、吉澤委員、中村氏（米原委員代理）

４　議　　題　（１）災害の発生危険度(発生確率)の設定について
　　（２）影響範囲の表示方法について

５　担当部署　広島県危機管理監消防保安課
　　℡（０８２）５１３－２７９０（ダイヤルイン）

６　会議の内容

（１）災害の発生危険度(発生確率)の設定について

○　確率論的な評価を行う「平常時の事故」、及び「地震動（短周期）による被害」の評価における「災害の発生危険度(発生確率)」を、消防庁が平成 25 年 3 月に改定した「石油コンビナートの防災アセスメント指針」で示した基準と同じ水準を採用することについて、各委員承認。

区分	安全水準	安全水準の意味
平常時	10^{-6}/年	同種の施設 100 万基に対して、対象とする災害が１年間に１回発生する確率
地震時（短周期）	10^{-4}/地震	想定地震が発生した場合に、同種の施設１万基に対して、対象とする災害が１回発生する確率

※参考

防災アセスメントでは、まず対象とする石油コンビナート施設において平常時や地震時に起こり得る災害の発生と拡大のシナリオを描くことから始まる。シナリオは、災害の引き金となる事象（初期事象）を先頭に記し、これに続く災害の拡大様相を防災設備の成否などにより分岐させたイベントツリー（Event Tree：ET）と呼ばれる図で表現する。この ET 図をもとに、それぞれの災害の特性に応じて次のような定量的評価を行い、防災計画策定において想定すべき災害の種類や規模を特定する。

○ 確率的なリスク評価：平常時の事故、地震時の短周期地震動による被害

○ 確定的な定量評価：長周期地震動による被害、津波による被害

（２）影響範囲の表示方法について

○　影響範囲の表示方法については，リスクマトリクス表や文章で示すことについて，各委員承認。

配布資料：

資料１安全水準の設定について資料２

資料２影響範囲の表示方法について

以上